

脱炭素先行地域とは

令和6年1月31日

尼崎市環境審議会

資料5

- 地域脱炭素ロードマップに基づき、**2025年度までに少なくとも100か所の脱炭素先行地域を選定し、脱炭素に向かう地域特性等に応じた先行的な取組実施の道筋**をつけ、**2030年度までに実行**
- 農村・漁村・山村、離島、都市部の街区など多様な地域において、**地域課題を解決し、住民の暮らしの質の向上を実現**しながら脱炭素に向かう取組の方向性を示す。

脱炭素先行地域とは

民生部門（家庭部門及び業務その他部門）の電力消費に伴うCO2排出の実質ゼロを実現し、運輸部門や熱利用等も含めてその他の温室効果ガス排出削減も地域特性に応じて実施する地域。

民生部門の
電力需要量

=

再エネ等の
電力供給量

+

省エネによる
電力削減量



スケジュール

	第1回選定	第2回選定	第3回選定	第4回選定	第5回選定
募集期間	<2022年> 1月25日～2月21日	<2022年> 7月26日～8月26日	<2023年> 2月7日～2月17日	<2023年> 8月18日～8月28日	<2024年> 検討中
結果公表	4月26日	11月1日	4月28日	11月7日	未定
選定数	26（提案数79）	20（提案数50）	16（提案数58）	12（提案数54）	-

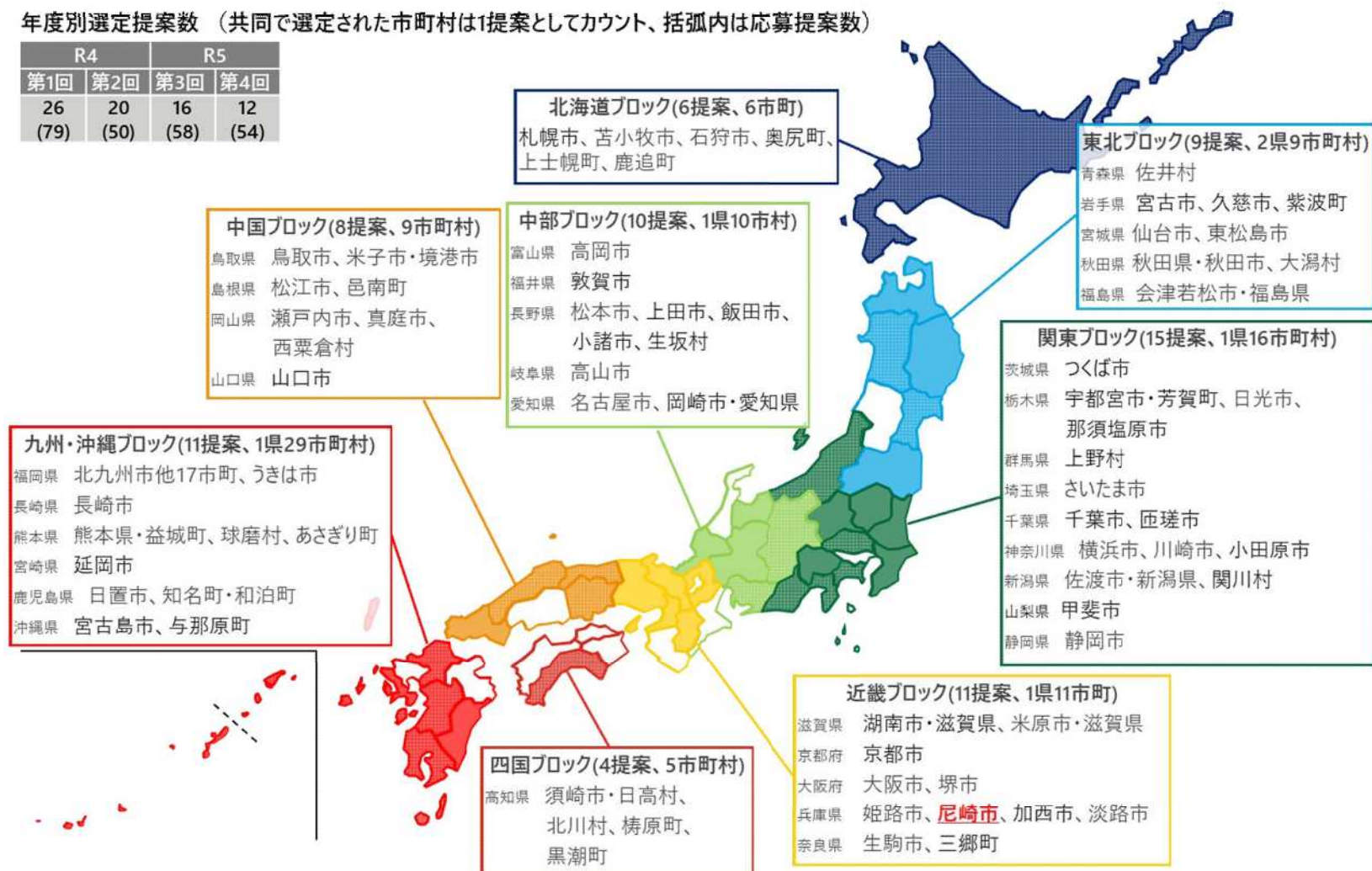
※今後の選定状況次第で、2025年度を待たずに募集を終了する可能性があります。

脱炭素先行地域の選定状況（第1回～第4回）

■ 第1回から第4回までで、全国36道府県95市町村の**74提案**が選定となった。

年度別選定提案数（共同で選定された市町村は1提案としてカウント、括弧内は応募提案数）

R4		R5	
第1回	第2回	第3回	第4回
26	20	16	12
(79)	(50)	(58)	(54)



尼崎市：「阪神大物地域ゼロカーボンベースボールパーク整備計画～地域課題解決型！官民連携事業～」

ゼロカーボンベースボールパーク
紹介movie

脱炭素先行地域の対象：小田南公園内タイガース野球場等、大物公園、大物川緑地、阪神電車尼崎駅等市内6駅、尼崎車庫
 主なエネルギー需要家：公園緑地3か所、小田南公園内の野球場2施設、選手寮兼クラブハウス、室内練習場、鉄道6駅、尼崎車庫
 共同提案者：阪神電気鉄道株式会社

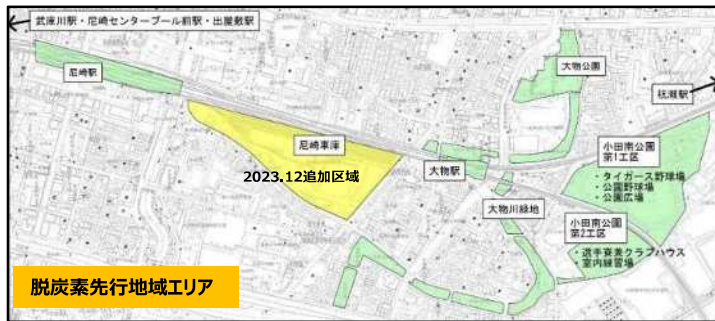


取組の全体像

人口減少が進む市南部大物地域の小田南公園に阪神タイガースファーム施設が移転することにあわせ、同公園内の野球場、練習場等のスポーツ施設、大物公園に太陽光・蓄電池を導入、不足する電力はごみ発電の余剰電力を活用しゼロカーボンベースボールパークを実現する。あわせて、市内の阪神電車の駅（6駅）及び尼崎車庫を太陽光等により脱炭素化するとともに、EVバスの導入、ゼロカーボンナイトの開催等を行い相乗効果を図る。

1. 民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

- ① 各施設において省エネを徹底し、選手寮兼クラブハウス、尼崎車庫内の新築建物については、ZEBReadyを目指す。施設の形状等が特殊なタイガース野球場と室内練習場もZEBOriented、ZEBReadyを目指す
- ② タイガース野球場及び室内練習場には太陽光発電(710kW)と蓄電池を導入し、不足する電力はクリーンセンターの廃棄物発電の余剰電力を活用
- ③ 大物公園・大物緑地は太陽光発電・蓄電池、太陽光発電付き公園灯、再エネや啓発に効果的な設備を導入
- ④ 市内鉄道駅舎6駅・車庫は、太陽光発電(計1,121kW)を導入し、各駅・車庫間で融通を行う。不足分は再エネ電力を調達



2. 民生部門電力以外の脱炭素化に関する主な取組

- ① ゼロカーボンベースボールパークとして公園内や試合の中で脱炭素の取組を周知し、ゼロカーボンナイト（RE100、バイオマス素材の活用、プラスチックリサイクルの強化）の開催等に取り組む
- ② 鉄道網が発達している東西の移動に比べて交通手段が限定される南北の主要交通手段である路線バスへのEV(26台)導入

3. 取組により期待される主な効果

タイガース野球場（約3,600席設置予定）で開催される年間約100試合の来場者だけではなく、試合以外のイベント等により多くの集客を見込むことが出来る。こうした来場者に対して、駅の脱炭素化、EVバス・シェアサイクルの導入といった来場時の交通の脱炭素化を進めることや、先行地域内で行われる脱炭素の取組をPRすることで、市民等の行動変容が期待できる。

4. 主な取組のスケジュール

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
小田南公園	設計	再整備工事		・ゼロカーボンナイトの開催 ・脱炭素関係のソフト事業の推進	
大物公園等	大物公園(第一期)工事	大物川緑地の工事		大物公園(第二期)工事	環境教育の実施
駅	大物駅・杭瀬駅の工事(太陽光)	尼崎センタープール前駅工事(太陽光)	武庫川駅の工事(太陽光)		
尼崎車庫			大物駅の工事(LED)	センタープール前、尼崎駅の工事(LED)	杭瀬、出屋敷駅の工事(LED)
その他				新築建物ZEB Ready化及び高効率照明LED導入工事	工場等への太陽光発電設置工事
				EVバスの導入及び運行	シェアサイクルの導入

ゼロカーボンベースボールパーク

ZERO CARBON BASEBALL PARK



施設概要

全体敷地面積	敷地面積 約74,330㎡ ※第1工区:約56,126㎡ 第2工区:約18,204㎡		
野球場	日鉄鋼板 SGLスタジアム 尼崎		
	グラウンド	両翼95m、中堅118m ※方角やグラウンドの形状・仕様は甲子園球場と同じ 12,647㎡ 内野:黒土 外野:天然芝 外野フェンス際:人工芝 ※ファールグラウンド一部は人工芝(甲子園同様)	
	スタンド座席数	約3,600席(車いす席:18席(介助者席同数)) ※外野800人収容可能(座席は無)	
	ナイター照明	LED照明 6基(高効率照明)	
	防球ネット	(外周)内野～外野:55m 外野55～30m、(内野)観客席最上部の高さまで	
	バックスクリーン	ビジョン(19.2m×7m、高効率照明) ※甲子園:約30m×約8m	
	ブルペン	ホーム・ビジター側ともに各2レーン	
	ランニング走路	グラウンド外(外野スタンド)に専用走路	
	環境設備	太陽光パネル、ZEB Oriented(省エネ▲30%～▲40%以上)	
	室内練習場	(仮称)小田南公園野球場	
グラウンド		両翼:90m 中堅93m	内野練習場
収容人数		内野:黒土 外野:天然芝 観客席約50席	内野:黒土 その他:天然芝
ナイター照明		LED照明4基(高効率照明)	—
選手兼クラブハウス	面積	建築面積 6,168㎡ ※約65m×約90m	
	内野	60m×60m、グイヤモト有(内野守備練習可)	
	ブルペン	6レーン	
	打撃練習場	打撃練習6レーン ※内野エリア3レーン、固定3レーン(ボール自動回収)	
	環境設備	太陽光パネル、蓄電池、ZEB Ready(省エネ▲50%以上)、高効率照明他	
選手兼クラブハウス	その他	コンディショニングエリア(トレーニングエリア) 更衣室(シャワー有)、ロッカールーム等諸室	
	面積	建築面積2,236㎡ 延床面積3,704㎡(1階 2,185㎡ 2階 881㎡ 3階 638㎡)	
	部屋数	38部屋 ※将来対応として5部屋増設可	
	トレーニングルーム	約300㎡ ※現在(鳴尾浜施設)は約220㎡	
	選手ロッカー	約260㎡ ※現在(鳴尾浜施設)は約120㎡	
選手兼クラブハウス	環境設備	太陽光パネル、ZEB Ready(1階クラブハウス部分のみ。省エネ▲50%以上)、高効率照明他	
	その他	流水リハビリ・トレーニングプール施設 ※現在(鳴尾浜施設)は無	

ゼロカーボンベースボールパーク

ZERO CARBON BASEBALL PARK

具体的な取組み（予定）

